

Open Com

地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院



大阪府「男女いきいき・元気宣言」登録事業者



「働きやすい病院」認定病院(第1号)

●につけ子育て支援大賞受賞

●女性のチャレンジ支援賞(内閣府)受賞

大阪厚生年金病院

<http://www.okn.gr.jp/>

オープンコム

No. 25
2010.9

開放型病床をもつ開かれた病院として、地域の先生方や住民の皆様とコミュニケーションを図り、心かよう安心の医療を目指します。



病院長就任ご挨拶.....02

当院の実力.....03~05

皮膚科編・形成外科編

後期臨床研修医の紹介.....06

トピックス.....07~08

「大阪厚生年金病院母子医療センター懇談会」開催報告

第6回 NICU 同窓会 開催報告

第14回股関節教室 開催報告

患者相談室 Open Wind.....09

ボランティア会『ライラック』について.....10

患者情報室「ラヴェンダー」ニュース.....11

かかりつけ医さんこんにちは.....12~13

荘田診療所

サギス中クリニック

中島小児科診療院

村上脳神経外科・内科クリニック

当病院の活動内容を掲載している記事.....14~17

各種教室・公開講座・院内の公開講座.....18~19

病院長就任ご挨拶

院長 山崎 芳郎



平成 22 年 4 月 1 日付けで清野前院長の後を引き継ぎ病院長に就任いたしました。

開設 57 年を経過した大阪厚生年金病院は、当初リハビリ中心の整形外科病院として出発しましたが、疾病構造・医療制度の変革に対応すべく、小野名誉院長の時に救急医療や ICU の整備など急性期病院への脱皮が図られました。次いで、清野名誉院長の時には地域医療連携の強化やワーク・ライフバランスの導入による職員の労働負担軽減が他の病院に先駆けて企図されました。この様な歴代院長のご努力と共に地域住民や医療関係者の厚い信頼と連携に支えられ、当院は大阪市西部地区で地域医療支援病院の役割を担う病院に成長し、現在に至っております。

一方、小泉改革に端を発した年金各施設の整理合理化案は着実に推進され、「青春の聖地」として多くの人々に馴染まれた大阪厚生年金会館をはじめ全ての施設が民間や地方の公共団体に売却されました。当初は全国 7 病院も譲渡や廃止の対象施設として考えられていましたが、患者さんや職員ならびにその家族さらには地域住民をはじめとする多くの方々の存続署名運動や医療崩壊への政策転換を背景として、「地域医療への貢献を最大使命とする新たな公的病院機構」への参画が、政局に翻弄されながらも地道に法案作成の審議が継続

されています（この広報誌が発行される頃には、新たな展開策が決定している筈です）。

法案成立後も幾多の「仕分け」に立ち向かい、今後 1 ～ 3 年間をかけて伝統ある大阪厚生年金病院がすっきりした形で再出発できる様、責任の重さを強く感じつつ奮励努力して参りますが、皆様のご協力なくしては成就しませんので一層のご支援お願い申し上げます。

従前の病院基本方針に大きな変化はありませんが、地域医療機能の推進を目指す政府案とも相通ずる以下の 3 項目を今後の最重点課題としますのでご理解ください。

- ① 4 疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病をはじめとする生活習慣病）・5 事業（救急医療・小児救急医療・周産期医療・災害時医療・へき地医療）の更なる拡充。従前のプライマリ・ケアセンター・脳卒中センター・母子医療センター・ICU・NICU に加えて新たに整備指定された循環器センターと大阪府がん診療拠点病院の各要件を満たし、将来の地域完結型医療の推進を目指します。
- ② 高度・良質で安全かつ透明度の高い医療提供を目指します。
- ③ チーム医療実践に必要なワーク・ライフバランスと次代を担う人材育成構築を図ります。

病院の理念・基本方針・患者さんの権利と責務

(1) 病院の理念

1. 高度で安全な医療を目指します。
2. 患者さんの立場に立って、心温まるケアに専念します。
3. 近隣のかかりつけ医と連携し、地域の医療と福祉を推進します。
4. 職員全員が働きやすい職場づくりをすすめます。

(2) 地域医療支援病院としての基本方針

1. 小児救急を含む 24 時間救急医療をおこなっています。
2. 母子医療センターとして妊娠・分娩と新生児・未熟児の医療に 24 時間体制で迅速かつ確実に対応します。
3. 各部位の癌に対して、内科的・外科的に積極的な集学的治療をおこなっています。
4. 内視鏡、内視鏡下手術などを用いた低侵襲かつ高度な治療とともに外来化学療法や緩和医療チームにも力を入れています。
5. 慢性疾患に対しても集学的な治療体制を整え、患者教育にも熱心です。
6. 脊椎・四肢・視覚・聴覚・皮膚等の疾患に対して、専門性の高い手術的治療を麻酔科、ICU、放射線科等とチームを組んでおこなっています。
7. 麻痺・痛み等に対して、各診療科が協力して治療にあたります。
8. 生活習慣病の予防や癌の早期発見についても各診療科が協力して診療にあたります。
9. 各診療科での診療は地域や関連する診療所や病院との連携を大切にこなっています。

10. 地域の医療従事者と合同で医療の質の向上を目的とした研修会等をおこなっています。
11. 職員の子育て支援にも積極的に取り組んでいます。

(3) 患者さんの権利と責務

1. 患者さんは、誰でも当院でおこないうる最善の医療を平等に受ける権利があります。
2. 病名と治療方法など十分な説明を聞いた上で、患者さんは、自分の意思で治療を受け入れるかどうかを決めることができます。
3. 治療の途中でも、患者さんは、他の医師に意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。
4. 患者さんの病名その他の個人情報保護されます。又、病名や検査結果など必要とする情報は患者さんによる適切な手続き後にいつでも求めることができます。
5. 全ての患者さんが適切な医療を受けていただく為に、当院の規定・規則を守り他の患者さんの診療に支障となる迷惑行為を慎み、医療者と協力して療養する責務があります。

看護部の理念

患者さんの生命の尊厳と権利を尊重し、生活の質を高める看護を実践するとともに、人を癒し、人を活かす職場づくりに努めます。



池上 隆太

皮膚科主任部長

専門 皮膚科診療全般・接触皮膚炎、紫斑病・
糖尿病を含む足病変の診断、治療
経歴 1995年 近畿大学医学部卒業
資格 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

チーム医療によるフットケアの取り組み

当院の皮膚科は5名の医師で幅広い皮膚疾患に対応しています。5月にはナローバンドUVB/UVA全身型紫外線照射器を導入しました。抗TNF- α 阻害薬の使用承認施設でもあり、重症乾癬・関節症性乾癬に対してさらなる治療の充実をはかっています。皮膚腫瘍に対してはダーモスコピーや表在

エコー、皮膚生検による診断もおこなっており、形成外科とも連携しながらあらゆる皮膚腫瘍に対応しております。

また2008年からフットケア外来をおこなっています。糖尿病患者さんは年々増加の一途をたどっており、糖尿病性潰瘍・壊疽も増加しております。壊疽による下肢切断は生活の質の低下のみならず生命予後をも左右するため、今後もフットケアがますます重要な位置づけになるものと思われます。糖尿病性潰瘍・壊疽の背景には皮膚疾患、糖尿病性神経障害、末梢動脈疾患があり、他臓器に合併症を伴っていることも多いためチーム医療が必要です。皮膚科におけるフットケア外来では定期的な血流評価や足の診察・処置、生活指導などを中心におこなっています。重症例では糖尿病内分泌内科はもとより下肢の経皮的血管形成術をおこなう循環器内科、バイパス治療をおこなう心臓血管外科、手術をおこなう形成外科、フットウェアをおこなう義肢室、リハビリ科、血液浄化センターなどで構成されたフットケアチームによるカンファレンスをおこない、患者さん一人一人の創の状態、検査所見、合併症などを考慮したうえで治療をおこなっています。

● 診療内容（診療対象疾患）

※ 詳細については当院のホームページ <http://www.okn.gr.jp/> もご覧ください。

難治性皮膚潰瘍、重症虚血肢、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、乾癬、掌蹠膿疱症
皮膚腫瘍、陥入爪、巻き爪など

● 特 色

- 外来は一般診療のほかに午後から完全予約制で
 - ・角化症外来（尋常性乾癬など）
 - ・膠原病外来
 - ・フットケア外来
 の専門外来を設け、時間に余裕を持って診療にあたれるようにしています。
- 難治性皮膚潰瘍に対しては神経学的検査、超音波血流計、ABI、サーモグラフィー、皮膚灌流圧、血管エコー、CTアンギオグラフィー、MRアンギオグラフィーなどを用いた原因の検索、病態の評価をおこない治療しています。
薬物治療以外にも topical hemotherapy や持続陰圧吸引療法、吸引水疱蓋植皮など侵襲の低い治療も積極的に取り入れています。
また、糖尿病や閉塞性動脈硬化症などにおける重症虚血肢では循環器内科、形成外科と連携をとり治療方針を決めています。
関節リウマチや強皮症など膠原病にともなう皮膚潰瘍では整形外科と膠原病専門医と連携して治療にあたっています。
- フットケア外来では糖尿病性壊疽による足切断の予防を目的に、主に糖尿病性足病変ハイリスク患者さん（糖尿病性神経障害、閉塞性動脈硬化症、足潰瘍、切断の既往）を対象として、リスクの評価と定期的なフットチェック、フットケアをおこなっています。
- 接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎では随時、血液検査やプリックテスト、標準・金属アレルギーなどによるパッチテストにて原因や増悪因子の検索をおこない、生活環境の改善もはかっています。
- 乾癬、掌蹠膿疱症などではビタミンD3・ステロイド外用剤、光線療法、エトレチネート・シクロスポリン内服療法などから患者さんと相談の上、治療にあたっています。
当院にはUVA/NB-UVBの全身型紫外線照射器があります。

- 皮膚腫瘍……表在エコーやダーモスコピーによる補助的診断もおこなっています。
皮膚生検や腫瘍摘出術と病理組織診断をおこなっています。
悪性腫瘍においては適宜、化学療法、放射線療法をおこなっています。
- 陥入爪、巻き爪……極力、爪を温存する方針で治療しています。
コットンパッキング法、ガター法、人工爪、弾性ワイヤー、巻き爪矯正法などから患者さんと相談の上、最適な治療法を選択しています（自費診療になるものもあります）。
- その他……液体窒素によるイボや腫瘍の治療をおこなっています。
高周波ラジオ波メスによる切開排膿やデブリードマン、腫瘍の切除をおこなっています。
難治性円形脱毛症に対してはSADBEやステロイドセミパルス療法もおこなっています。
壮年性脱毛症にはプロペシアの処方が可能（自費診療）です。

● 診療実績（2009年1月1日～12月31日）

外来診療	新規患者数	1,073
	新規入院件数	206
入院診療	皮膚腫瘍（手術、化学療法）	66
	感染症（細菌性、ウイルス性）	66
	難治性皮膚潰瘍・壊疽	21
	膠原病、自己免疫水疱症	17
	熱傷、褥瘡	13
	薬疹、中毒疹	10
	紅皮症、湿疹・皮膚炎	10
	その他（乾癬など）	3
手術	手術総件数	341
	皮膚・皮下腫瘍摘出術	94
	皮膚腫瘍冷凍凝固摘出術	71
	皮膚悪性腫瘍切除術	9
	皮膚切開術	103
	陥入爪手術	36
	創傷処理	10
	その他	18
	巻き爪・陥入爪治療（自費診療）	46

● スタッフ紹介



異 一啓 医師

経 歴 1999 年 関西医科大学卒業
資 格 麻酔科評榜医
日本泌尿器科学会認定専門医



馬淵 恵理子 医師

経 歴 2004 年 山梨医科大学卒業



中井 大介 医師

経 歴 2005 年 京都府立医科大学卒業



患者さん、一般の方への メッセージ・お願い

- 皮膚疾患は環境やストレス、内科疾患などさまざまなものが原因や悪化因子となることがあります。また慢性、難治性疾患も多く、私たちはこのような皮膚疾患に対して適切な検査や治療をおこなうことを心がけており、患者さんとともに治癒に向かっていきたいと考えています。
- かかりつけの先生にご相談していただき紹介状をお持ちください。受診の際は、それまでに使っていたお薬やお薬手帳がございましたら治療の参考になりますのでお持ちくださるようお願いいたします。



かかりつけ医の先生への メッセージ・お願い

- 緊密な病診連携をとるべく努力いたしますので、お気軽にご相談ください。
- 症状が寛解いたしましたら逆紹介させていただきますのでよろしくをお願いします。



皮膚科専門医を目指す 臨床研修医の皆さんへ

- スタッフ一丸となってよりよい医療を目指しています。
- 他科との連携を要する疾患が多く、皮膚以外のことも学べます。
- 専門医取得のために十分な臨床経験をつむことができます。

当院の実力

形成外科編



松下 哲也

形成外科主任部長

専 門 形成外科全般
経 歴 1986 年 香川医科大学卒業
資 格 日本形成外科学会認定医

当院形成外科は 1994 年 9 月に開設し、地域の先生方にご支援頂き、16 年の歴史を刻むことができました。スタッフの数、診療内容について安定した状態が長年続いており、地域の先生方とも安心して病診連携を築くことが出来るものと自負しています。

形成外科の診療としては顔面骨骨折や挫創などの外傷は救急部や整形外科、脳外科とも協力して初期治療をおこなうとともに治癒後の瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイドなどの発生につき follow up しています。皮膚腫瘍では皮膚科、病理科と十分に検討して診断、有棘細胞癌、悪性黒色腫な

どの皮膚悪性腫瘍では皮膚科と連携してセンチネルリンパ節生検、リンパ節郭清、放射線、化学療法等集学的に治療をおこないます。閉塞性動脈硬化症などに伴う足趾の皮膚潰瘍、壊死は循環器科、内科、皮膚科とフットケアチームとして診療をおこない、機能損失や合併症が最小限になるよう努めています。

早期に外科治療を要する壊死性筋膜炎、フルニエ壊疽、ガス壊疽などの重症皮膚感染症についても麻酔科、ICU、ICT と連携して迅速に対応しています。

当院では外科系各科が積極的に手術療法をおこなっていることもあり、乳腺内分泌外科（乳房一期再建）、外科、耳鼻咽喉科（食道、頭頸部再建）、産婦人科、泌尿器科（外陰部再建）、脳外科（頭皮再建、顔面外傷）など腫瘍切除後や外傷による組織欠損の再建にも尽力しています。

整容外科につきましては保険診療の可能な疾患（腋臭症、臍ヘルニア、ピアスケロイド、醜状瘢痕、眼瞼下垂、母斑など）について患者さんと十分に相談の上、診療させて頂いております。

● 診療内容（診療対象疾患）

※ 詳細については当院のホームページ <http://www.okn.gr.jp/> もご覧ください。

形成外科一般

顔面の新鮮外傷	皮膚、軟部組織損傷や打撲、顔面骨骨折など
瘢痕、ケロイド	- ケロイド（ピアスケロイドを含む）や肥厚性瘢痕の手術、保存治療 - 全身の瘢痕拘縮、変形、醜形に対する組織再建を含めた瘢痕形成術
皮膚の良性腫瘍	皮膚科、病理科と慎重に病理組織を確認しています。
皮膚の悪性腫瘍	有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫他につき皮膚科、病理科とカンファレンスをおこないながら診断、治療をおこなっています。
形態異常	- 義眼床の狭小、眼瞼下垂、眼瞼内反、眼裂狭小などの眼瞼の形態異常 - 埋没耳、副耳、耳瘻孔、折れ耳、貝耳、レスリング耳などの耳の形態異常 - 鼻骨骨折および鞍鼻、斜鼻などの鼻の形態異常
難治性皮膚潰瘍	糖尿病性皮膚潰瘍、閉塞性動脈硬化症、褥創、放射線皮膚炎、うっ滞性皮膚炎、化学熱傷、電撃症など
重症皮膚感染症	ガス壊疽、壊死性筋膜炎、フルニエ壊疽など
体表の変形・奇形	副乳、女性化乳房、臍ヘルニア、毛巣洞、尿管管遺残などの体表変形・奇形
再建手術	各科手術後の組織欠損の再建
整容手術（美容外科）	腋臭症や顔面を中心とした露出部の変形に対する形成手術で保険診療が可能なもの

● 特 色

- 当科では顔や手足を中心とした身体の表面（皮膚、脂肪など）及びこれらと関連した組織（筋肉、骨など）、器官（まぶた、眉毛、鼻、耳、頭皮、指、口、舌や食道の一部、その他）の異常を再建することで機能や形態を回復させること、さらに精神的苦痛を取り除くことを目指しています。
- 乳癌の乳腺全摘術に対して一期的再建術を乳腺外科と共同でおこなっています。
- 糖尿病などによる閉塞性動脈硬化症により生じた足趾の壊疽や皮膚潰瘍に対して循環器科、内科、皮膚科と協力して機能損失が少なくなるように努めています。
- その他皮膚科、耳鼻科、整形外科、外科、脳外科など各科の手術の後に生じた組織欠損や変形に対して形態の再建にも尽力しています。

● 診療実績（2009年1月1日～12月31日）

手術分類は平成22年度日本形成外科学会認定施設基準

外来診療	新規患者数	848		
入院診療	新規入院件数	339		
手術		全、腰麻	局 麻	計
	外傷	13	26	39
	先天異常	4	9	13
	腫瘍	44	189	233
	瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド	4	12	16
	難治性潰瘍	25	18	43
	炎症、変性疾患	5	12	17
	美容	4	10	14
	その他	0	17	17
	手術総件数	99	293	392

● スタッフ紹介



菅野 祐行 医 長

経 歴 2001年 福井医科大学医学部卒業



西尾 優志 医 師

経 歴 2006年 大阪医科大学卒業



高木 美奈子 医 師

経 歴 2006年 近畿大学医学部卒業



患者さん、一般の方への メッセージ・お願い

- 私達の形成外科チームでは形成外科に関連した疾患について主治医を中心に診断、治療方針をチーム全体で話し合い、患者さんそれぞれの状況に合った診療を行えるように努力しています。未成年や御高齢の患者さんの場合はご家族にも診療内容についての説明、相談に出来る限りご参加頂き、ご理解、ご安心頂けるように努めています。



かかりつけ医の先生への メッセージ・お願い

- 形成外科に関連した疾患かどうかで迷われる際は地域医療連絡室あるいは形成外科外来にご連絡ください。また形成外科領域で逆紹介の形で先生方にご負担をおかけしている事と存じますが、困難な点や不明な点がございましたら御一報頂ければ幸いです。



形成外科専門医を目指す 臨床研修医の皆さんへ

- 当院形成外科研修は厳しいですが、丁寧に指導することで手術を中心として基礎的な臨床の力を身につけて頂くように心掛けています。形成外科認定医取得を一樣の目標としますが、術前後に必要な全身状態の管理も関連各科に指導を受けながら習得して頂きます。



岡 樹史 医師
(大阪大学出身)
内 科



甲斐 優吾 医師
(大阪大学出身)
内 科



城 尚志 医師
(金沢大学出身)
内 科



松村 有記 医師
(兵庫医科大学出身)
内 科



山崎 環 医師
(徳島大学出身)
小児科



長田 奈津子 医師
(広島大学出身)
産婦人科



村上 知義 医師
(関西医科大学出身)
脳神経外科



大槻 大 医師
(奈良県立医科大学出身)
整形外科



久保 貴敬 医師
(愛媛大学出身)
整形外科



羽田 勝彦 医師
(弘前大学出身)
整形外科



笠島 裕明 医師
(大阪市立大学出身)
外 科



河合 賢二 医師
(大阪大学出身)
外 科



川崎 綾子 医師
(兵庫医科大学出身)
乳腺・内分泌外科



宮本 景子 医師
(岡山大学出身)
乳腺・内分泌外科



松長 由里子 医師
(奈良県立医科大学出身)
心臓血管外科



高杉 純司 医師
(近畿大学出身)
神経内科



森島 久仁子 医師
(川崎医科大学出身)
麻酔科



岡崎 栄一郎 医師
(大阪市立大学出身)
放射線科

「大阪厚生年金病院母子医療センター懇談会」開催報告

2010年6月24日(木)リーガロイヤルホテルにおいて、「大阪厚生年金病院 母子医療センター懇談会」が開催されました。

「母子医療センター」が開設され今年で3年となり、多くの先生方にご協力していただき、地域周産期医療へ貢献出来るよう職員一同努力してまいりました。

山崎芳郎 院長挨拶の後、小川晴幾 産婦人科部長（母子医療副センター長）・岡崎光男 産科担当部長より「大阪厚生年金病院への紹介妊婦の分娩報告」、高田慶応 NICU 担当部長より「2009 年度 NICU 実績報告」について報告をおこないました。

大阪新生児相互援助システム（NMCS）会長 船戸正久先生によるご挨拶、乾杯により和やかに懇談会が始まりました。



船戸先生によるご挨拶

また、清野佳紀 名誉院長より挨拶の後、高木レディースクリニック院長 高木哲先生、多賀助産院 多賀佳子先生をはじめ、先生方より貴重なお言葉をいただくことができました。

懇談会では、周産期医療の大学関係者、産科オープンシステム登録医・登録助産師及び小児連携医療機関の先生方が当院職員と盛んに意見交換をおこない、田川哲三 副院長（母子医療センター長）の挨拶をもって閉会しました。

これからも地域の医療機関と連携し、よりよい医療を提供できる母子医療センターを目指し、努力していきたいと思っております。

今後ともご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

（地域医療連絡室 北山 幸子）



高木先生



多賀先生

患者さんへのお願い 当院での **整形外科初診・再診** の取り扱いについて



（地域医療連絡室）
TEL (06) 6441-5451 (代)
AM 9:00 ~ PM 5:00
（土日祝日を除く）

当院では、**整形外科（リウマチ科・スポーツ医学科を含む）の初診は他医療機関からの紹介患者さん限定**とさせていただきます。一度通院していた患者さんも治療が終了して次回の予約がない患者さんは初診となり、他医療機関からの紹介が必要です。

受診ご希望の際は、先ずかかりつけ医の先生にご相談いただき、先生を通じてご予約いただきますようお願いいたします。

また、紹介状をお持ちであれば患者さんからの予約もお取りできますので下記までご連絡ください。

なお、予約をされていない方は、紹介状をお持ちでも診療開始がかなり遅れることがありますので、ご了承くださいませようお願いいたします。**再診も、初診と同様にすべて予約制**です。

診察室が予約の患者さんで常時ふさがっているため、紹介状なしや予約なしに受診された場合、診察室や診察医師の手配ができませんのでご了承ください。

第6回 NICU 同窓会 開催報告

2010年6月5日（土）に第6回NICU同窓会を大阪厚生年金病院附属看護学校体育館で開催いたしました。

これはNICUに赤ちゃんが入院した同じ立場のご家族が交流し、楽しい一時を過ごしていただければと毎年開催している企画です。これまでは毎年秋に開催していたのですが、昨年秋は新型インフルエンザ流行のため延期させていたさき、6月開催となりました。

約60家族、合計200名近くとこれまでで最も多い参加をいただきました。

毎回好評をいただいているぽっかぽっか助産院の渡辺和香先生によるタッチケアの実技講習のほか、絵本の読み聞かせ、茶話会、個別相談、毎年ご協力いただいている新風堂書店（奈良市）さんの絵本の出張販売などの内容で、



着ぐるみのスタッフも登場し、和やかに楽しい半日を過ごすことができました。

（小児科NICU担当部長 高田 慶応）

第14回 股関節教室 開催報告

2010年5月23日（日）に第14回股関節教室（大阪厚生年金病院主催）を大阪国際会議場（グランキューブ大阪、大阪市中之島）にて開催しました。

今回のテーマは『人工股関節術後は本当に支障なく生活できるの？』で、医師・看護師からのお話と患者さんの体験談を交えて進行了しました。参加者は220名でした。

現在、日本では毎年40,000例を超える人工股関節手術がおこなわれています。人工股関節の進歩は近年目覚しく、その情報量も多いため患者さんの混乱を生じかねない状況であるのが現状です。人工股関節により患者さんの生活の質が向上することは期待されますが、

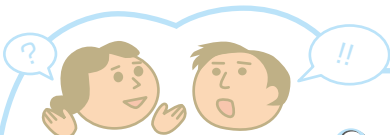
人工股関節を長持ちさせてうまく付き合っていくことは簡単なことではありません。

医療者サイドからの一方的なお話だけでは、「人工股関節とうまく付き合っていく方法」をよりの確に患者さんにお伝えすることができないと考えています。

当教室では、人工股関節や股関節の病気についての最新情報と患者さんの生の声を提供することを目的に毎年1回開催しています。

今回は、来年2011年6月18日（土）に第15回股関節教室を開催する予定です。ご参集いただけたら幸甚であります。

（整形外科人工関節担当部長 中田 活也）



患者相談室

Open Wind より
オープン・ウィンド

昨年11月から本年5月まで、投書箱「みなさまの声」に寄せられた件数は139件で、患者相談室に寄せられた相談等は全部で161件です。
その中の苦情及びご意見の一部を紹介します。

Q 娘（1歳半）の採血時の感想です。拘束が必要なのは十分理解していますが、一言「拘束着を使用しますので、協力願います」等の言葉があれば、気持ち良く採血をお願いします。子供の採血が大変なことは、見ていてわかりますし、泣いてお騒がせし、手を焼かれているのを見て申し訳なく思っています。ただ、一言の言葉があるかないかで、こちらの何とも言えない思いもやわらぎます。勝手な親の思いですが、ご参考いただくと嬉しいです。

A お子様の採血に関しては事故のないよう特に注意を払っておりますが、ご家族への気配りに関して大いに反省すべき点でございます。「お子様が動き始めると、腕で押さえるだけでは不十分で危険ですので、安全のため拘束着を使わせていただきますが、よろしいでしょうか」の一言が無かったことについては誠に申し訳ございません。信頼される採血室であるためにもぜひ気をつけていきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

Q 精神神経科の性格上、主治医との面談（カウンセリング）による一言一言は、「聞きのがすまい」と気持ちをとがらせて診察を受けています。そんな時、パーティションで仕切られた隣の診察室の音が、まるまる聞こえてきます。お蔭で主治医の言葉を聞き漏らしてしまいます。おまけに今日は、隣の診察室の医師の PHS が鳴り、その電話に出た医師は、こちらの診察面談をさえぎる程の声で、平気でしゃべっています。こちらは何度も言葉を聞き返し、あげくのはてには、診察面談を中断してもらいました。以上が本日の事態でした。

A おっしゃる通りで申し訳なく思っていますが、聴力が悪くて、電話でも面談でも大きな声で喋らないと、言葉が伝わらない患者さんがおられます。患者さんが誤解されないように、むしろ故意に大きな声を出さないといけない時もあります。今後配慮いたします。

Q 診察が終わり、待っていた時のことです。眼科外来受付に、たくさんのパンを配達にきました。配達業者さんは指定の場所にもって来られただけだと思いますが、まだ診療を待っている患者さんがいるにもかかわらず、仕事を終えた職員の方や、まだ勤務中と思われる職員の方が、ワイワイとなっていました。思わず待ち合いの者同士目が合う程不思議な感じでした。外来とかでなく、見えない所ですべきではないでしょうか？

A 私達の軽率な行動で、患者さんに不快感を与えてしまい、大変申し訳ありませんでした。勤務終了後配達をお願いし、18時前だったのですが、外来には患者さんがおられたにもかかわらず、大きな声を出してしまい配慮不足でした。今後このようなことのないようスタッフ全員が言動・行動に注意します。
眼科の診察も終了していない時間帯で、乳腺外科の患者さんも外待合いにおられたのにもかかわらず、スタッフが大きな声を出して申し訳ありませんでした。

Q いつも診察に来る時に思うのですが、裏の入口は自転車がいっぱい、あふれています。自転車を止められないどころか、出し入れするにも難しく、なかなか通ることができません。お年寄りの方も、キャリアを持って通るのが難しいみたいです。どうか自転車の整理をきっちりと、診察に来る人も自転車が止められて、通る人も不便なく行き来できないでしょうか。お願いします。

A ご不自由をおかけし、大変申し訳ございません。狭いスペースに沢山の自転車が駐輪している状況を少しでも解消すべく協議・検討をしています。当面は、担当部署の職員が定期的に自転車の整理をするようにいたします。

Q 設備面で少し要望がございます。かつて地下に食堂や喫茶店がありましたので、セルフサービスでなくて良かったのですが、今では1Fの食堂のみ、身障の方々の昼食時には、自分でトレイなど持てません。食堂の対応なりを改善されたら、最高の病院になると思います。よろしくお願い致します。

A 身障者の方が食堂に来られた時には、食堂の職員が対応するよう指導しておりますので、お申出いただくようお願いいたします。



《重要なお知らせ》 **病院敷地内 全面禁煙**

当院は病院敷地内全面禁煙です。

ボランティア会『ライラック』について



午前8時すぎ、大阪厚生年金病院の正面入口を入ると「おはようございます。」と元気なあいさつの声が聞こえます。ピンクのエプロンを着けたボランティアさん達の声です。

1952年創立の大阪厚生年金病院でボランティア活動が始まったのは1960年代でした。当時は奉仕活動というところから、小児科病棟での患者さんのお世話や遊び相手、必要に応じて綿球などの衛生材料作り等をおこなっていましたが、諸般の理由で一時中断していました。

1995年1月17日の阪神淡路大震災を契機にボランティアの再結成の機運が高まり、当時の小野啓郎院長の示唆と、さらに福島区内にある日本病院ボランティア協会の力強い支援を得て、1996年5月10日に有志38人で、5月の花の名前をとって「ライラック会」と名づけ、再スタートいたしました。



当初の活動は平日の午前9時から午後4時までで、その内容は ◎外来患者の院内案内及び誘導 ◎入院患者の食事、入浴、清拭等の介助 ◎病児の保育、園芸等で、その活動には若干の変遷があるものの、おむね今も変わらずおこなわれています。その後、2004年12月から病棟への巡回図書サービスを開始、2005年7月1日には患者さんのためのミニ図書館とも言えるべき患者情報室の開設、2008年1月から乳がん患者や抗がん剤使用者のための「メイクセラピー」教室をオープンさせる等、多目的な活動を展開しています。

現在まで、のべ370名の参加があり、発足当時のメンバーの内3名の方が今も元気に活動しておられ、その活動も本年2010年5月10日に15周年の節目を迎えたところです。

現在の「ライラック会」の体制は、登録活動者は57名（男性7名、女性50名）で、毎日7～8名が活動に参加しています。若干年齢が高いものの、それぞれの経験を活かして患者の立場に立ち、「心のふれあい、思いやり、支え合い」の姿勢で「コテコテの大阪弁」と「普段着の言葉」で頑張っています。

ピンクのエプロンをしたボランティアさんを見られたら、ぜひお声がけください。元気な笑顔でお手伝いをさせていただきます。



患者情報室 Lavender News 「ラヴェンダー」ニュース

☆こんにちは 患者情報室のラヴェンダーです。
皆さんいかがお過ごしですか☆
入院生活で何かお困りのことはないでしょうか。

なんだか難しい医学用語…。
どういう意味だったかな？
ドクターはなんと説明していたっけ？

入院生活…。病室以外でくつろげる場所はないかな？
こんな時に本でも読めないかな？

そんな時、患者情報室ラヴェンダーは応援します。医療書・闘病記・一般書・パンフレット配布・患者会のご紹介・調べ物相談など、多岐にわたって提供していきます。患者さんの自己学習の場として、またくつろぎの場としてどなたでもお気軽にご利用ください。



患者情報室とは

患者さんが医療の情報を得たり、自己学習の場として、また、病院内でゆったりとした気分になっていただける空間として無料でご利用いただける施設です。

OPEN 月～土 火・土は病棟巡回のため休室の場合あり

※ 開室時間は院内の掲示か、お電話でご確認ください。
(通常 11:00～16:00)

場 所 別館 1 階
(スポーツ医学センター横)



スタッフからの一言メモ

ラヴェンダーの最大の魅力は、図書スタッフがボランティアであるということです。わたしたちボランティアスタッフは、患者さんみなさんがラヴェンダーに足を運びたいくなるような明るく、リラックスできる部屋づくりを心がけています。室内にはハーブの甘いラヴェンダーの香りがたどよい、ゆったりとした音楽が流れています。スタッフは各自の得意分野を受け持ち、それぞれ工夫を凝らしながら“温もりのある夢いっぱいの図書室”を目指し、活動を行っています。

ラヴェンダー利用案内

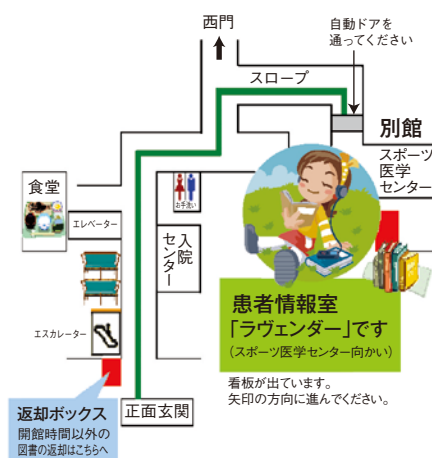
貸出・返却

- 入院中の患者さんはすべての図書を貸出しできます。
 - 一般書・闘病記：1週間 何冊でも可能です。
 - 医療書：1日 2～3冊まで。
- ※ただし、医療雑誌は貸出禁止（室内閲覧でお願いします）。
- 外来患者さんおよび一般の方は、一般書のための貸出が可能です。（その際、当院の診察券または身分証明書が必要です）
- 図書は、返却期限日までにラヴェンダーカウンターもしくは返却BOXにお返しくください。

レファレンス（調べ物相談）

- スタッフが患者さんの欲しい資料や情報を探すお手伝いをさせていただきます。
- ※ラヴェンダーから提供している医療情報は一般的なものです。患者さんご自身の症状に必ずしも一致した情報でないことをご理解ください。また、詳細については、担当医師にご相談されることをおすすめします。

マンガも
そろってるよ！



スタッフ一同
心よりお待ちしております。

かかりつけ医さん こんにちは

荘田診療所

院長 荘田 容志

〒551-0031 大阪市大正区泉尾1-8-16

TEL 06-6551-0041

FAX 06-6551-0041

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30~12:00	○	○	○	○	○	○
17:00~20:00	○	○	○	○	○	—



●JR 環状線「大正」駅下車、徒歩 6 分

診療科目
循環器内科/消化器科(胃腸科)/外科/整形外科

往診
有

休診日
土曜午後・日曜・祝日

駐車場 有



荘田容志先生(左)と静先生



40年前より大正区で父が開業しており、その後を継いで4年前より開業しております。現在も父と一緒に仕事をしております。私が内科で父が外科を担当しております。

循環器科を中心に禁煙外来なども行っております。

今後も大阪厚生年金病院と連携をとりながら、皆様のお役に立てるよう良質な医療を行っていきたく思っております。

今後ともよろしくお願いいたします。

サギス中クリニック

院長 塚本 雅子

〒553-0002 大阪市福島区鷺洲2-5-13

TEL 06-6455-1501

FAX 06-6455-1502

ホームページ <http://www.myclinic.ne.jp/sagisunaka/pc/>

診療時間	月	火	水	木	金	土
10:00~13:00	○	○	○	○	○	○
16:00~18:30	○	○	—	▲	○	—

▲…木曜日午後は健診のみ
(午後の診察はありません)



●阪神「野田」駅・地下鉄千日前線「野田阪神」駅・JR 東西線「海老江」駅下車、徒歩 8 分
●JR 環状線「福島」駅下車、徒歩 12 分

診療科目
内科

往診
有(水曜日)

休診日
水曜午後・木曜午後(健診のみ)・土曜午後・日曜・祝日

駐車場 有(1台)



塚本先生(前列右から2番目)とスタッフの皆さん



2005年10月から、住み慣れた福島区で、近所の方が健康で生活するお手伝いをさせていただきたいという思いで日々診療をしております。

かかりつけ医として大阪厚生年金病院と連携をとり、専門医に紹介し、入院になる時には、登録医として病室に訪問し、主治医に今後の治療を教えていただき、退院準備をします。

病診・診診・医療と介護の『連携』を大事にしています。

これからも地域医療連絡室にはお世話になります。

病診連携で日頃お世話になっている
かかりつけ医さんをご紹介します。

中島小児科診療院

院長 中島 滋郎

〒553-0007 大阪市福島区大開2-3-5 カンザキビル 2F

TEL 06-6466-1500

FAX 06-6466-1501

ホームページ <http://nakajimaclinic.jp/>

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○*	○	○	○	○*
16:00~19:00	○	○*	○	—	○	—

- はしか、みずぼうそう、おたふくかぜなどの方はあらかじめお電話ください。
- 予防接種は毎週火曜日午前診、火曜日午後診、土曜日午前診(表内※印)に予約制で行います。お電話か、受付窓口で予約をお取りください。



●地下鉄千日前線「野田阪神」駅、阪神本線「野田」駅、JR環状線「野田」駅下車、徒歩7分

診療科目

小児科

往診

無

休診日

木曜午後・土曜午後・日曜・祝日

駐車場 無



中島先生



当院は元々南区鰻谷（現中央区東心斎橋）にありましたが、縁あって福島区内で2007年11月に再開いたしました。阪大病院が福島にありました頃は臨床や研究面の相談によくお邪魔しておりました。

最近では患者さんの入院や専門外来への紹介で小児科以外に整形外科、泌尿器科、外科、眼科、皮膚科などにもお世話になっております。

清野名誉院長、田川副院長、佐野部長など大学時代に指導を受けた先生にお会いするのもさることながら、大勢おられる若い小児科の先生方とお話するのも楽しみです。

村上脳神経外科・内科クリニック

院長 村上 登

〒554-0013 大阪市此花区梅香1-26-8

TEL 06-6461-0120

FAX 06-6461-0120

ホームページ <http://sankikai.net/>

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
16:00~19:00	○	○	—	○	○	—



●阪神なんば線「千鳥橋」、「西九条」駅・JR環状線「西九条」駅下車、徒歩5分

診療科目

脳神経外科/内科/外科/放射線科/小児科/神経内科/リハビリテーション科

往診

有

休診日

水曜午後・土曜午後・日曜・祝日

駐車場 有(1台)
※車椅子出入可



村上先生(右から3番目)とスタッフの皆さん



1994年、父の後を継ぎ現在地に開業しました。

モットーは、小児から高齢者まで、頭のでっぺん（脳神経領域）から、足のつま先（外科整形外科）まで、内科・外科を問わずオールラウンドに丁寧な診て、的確に診断治療するフィジシャンを目標にしております。

今後とも厚生年金病院の皆様とはハートフルな病診連携をとり、スタッフ一同地域医療に取り組んでまいります。よろしくお願い申し上げます。

各種教室

両親学級

問 大阪厚生年金病院（産婦人科外来）
☎ 06-6441-5451（内線 2279）

- 開催日／毎月第 1、2、3 水曜日
- 時 間／13：30～15：30
- 場 所／当院 2 階 第 1 会議室
- 費 用／1,000 円（3 回分）



腎臓病教室

問 大阪厚生年金病院（血液浄化センター）
☎ 06-6441-5451（内線 2667）

- 時 間／13：30～14：30
 - 場 所／当院 2 階 第 1 会議室
 - 費 用／無 料
 - 方 法／事前申し込み不要、直接お越しください。
- ※12 月は休会：開催なしです。



開催日	テーマ	対 象	担 当
2010 年 10 月 28 日 (木)	腎臓を長持ちさせるために ①慢性腎不全とは ②日常生活で注意すること	主に慢性腎不全患者さん（保存期）	医 師
2010 年 11 月 25 日 (木)	慢性腎不全の食事療法（カリウム、塩分制限の工夫）	主に慢性腎不全患者さん（保存期）	栄 養 部
2011 年 1 月 27 日 (木)	腎臓病と薬	主に慢性腎不全患者さん	薬 剤 部
2011 年 2 月 24 日 (木)	腎臓病と検査（データの読み方）	主に慢性腎不全患者さん	検 査 部

レッツ！糖尿病教室

問 大阪厚生年金病院（内科外来）
☎ 06-6441-5451（内線 2274）

- 時 間／14：00～16：00（受付は 13：45 から）
- 場 所／当院 2 階 第 1 会議室
- 費 用／無 料
- 方 法／事前申し込み不要、直接お越しください。

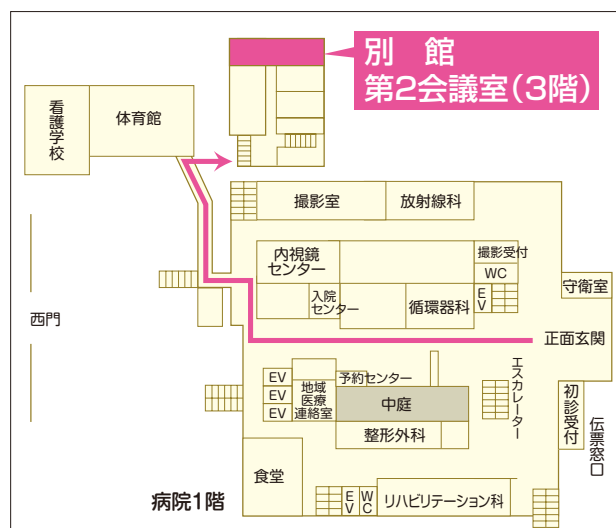


開催日	テーマ	担 当
10 月 7 日 (木)	糖尿病における皮膚疾患 …………… 足の手入れのポイント …………… 合併症の検査（神経障害） ……………	医 師 看護師 検査技師
11 月 4 日 (木)	歯周病と糖尿病の親しい関係 …………… 口腔ケア …………… 食事療法の実際 ……………	医 師 歯科衛生士 管理栄養士
12 月 2 日 (木)	身体の具合の悪い時はどうする？ …………… シックデイとは …………… 年末年始の食事の工夫 ……………	医 師 看護師 管理栄養士

禁煙教室

問 大阪厚生年金病院（内科外来）
☎ 06-6441-5451（内線 2274）

- 開催日／毎月第 1、3 水曜日
 - 時 間／13：00～14：00
 - 場 所／当院別館 第 2 会議室（3 階）*
- ※ 別館第 2 会議室（3 階）は、右記アクセス図をご参照ください。
- 費 用／無 料
 - 方 法／事前申し込み不要、直接お越しください。



公開講座

どなたでも参加できます

消化器病懇話会

問 大阪厚生年金病院（内科外来）
☎ 06-6441-5451（内線 2274）

- 日 程／各開催日、テーマなどについては確定次第、院内に掲示いたします。
- 時 間／14:00～16:00
- 場 所／当院 2 階 第 1 会議室
- 費 用／無 料
- 方 法／事前申し込み不要、直接お越しください。

開催日	テーマ	担 当
2010 年 10 月 9 日（土）	インターフェロン治療	伊藤部長
2010 年 11 月 20 日（土）	胃がんについて	道田部長
2011 年 1 月 15 日（土）	インターフェロン治療	内藤部長



院内の公開講座

対象：医療従事者

院内の公開症例検討会

問 大阪厚生年金病院（地域医療連絡室）
☎ 06-6441-5463

名 称	日 時	場 所
乳腺疾患カンファレンス	第 1・3 水曜日 17:30～19:00	2 階 第 2 会議室
手の外科診療班症例検討会	第 1 金曜日 19:00～21:00	2 階 第 1 会議室
脳卒中カンファレンス	毎 週 火 曜 日 17:00～18:30	4 階 カンファレンス室
婦人科腫瘍合同症例検討会	第 4 木曜日 17:00～18:00	2 階 第 2 会議室
臨床病理検討会 (CPC)	毎月最終水曜日 17:30～18:30	看護学校視聴覚室*

※ 看護学校は、下記アクセス図をご参照ください。

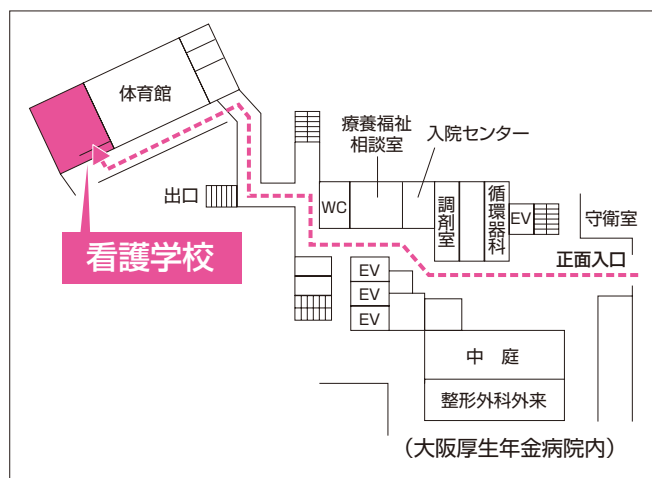
院内でおこなわれる症例検討会であり、緊急手術や学会により中止になることがあります。恐縮ですが、開催日の 1 週間以内に地域医療連絡室（TEL 06-6441-5463）にご確認ください。

公開講演会

問 大阪厚生年金病院（看護部：高橋）
☎ 06-6441-5451（代表）

- 場 所／看護学校視聴覚室
※ 看護学校は、右記アクセス図をご参照ください。
- 費 用／無 料
- 方 法／事前申し込み不要、直接お越しください。
- 対 象／看護師、その他医療従事者

開催日	時間	テーマ
2010 年 11 月 12 日（金）	17:30～19:00	認知・高齢者看護
2010 年 11 月 18 日（木）、 11 月 26 日（金）	17:00～18:30	栄養管理
2010 年 12 月 9 日（木）、 12 月 16 日（木）	17:00～18:30	退院調整
2011 年 1 月 11 日（火）、 1 月 25 日（火）	17:00～18:30	緩和ケア
2011 年 2 月 16 日（水）、 2 月 28 日（月）	17:00～18:30	癌化学療法



外来診療 受付時間

8:30～11:30 (土・日・祝日を除く)

初診の方は、「紹介状」をお持ちの上、かかりつけ医の先生から初診予約をしてお待ちください。整形外科は紹介状なしでは受診できません。

一般病棟 面会時間

12:00～21:00 平日 (月～金)

10:00～21:00 土・日・祝日



かかりつけ医の先生専用 診療・検査予約先

患者さんからの FAX お申し込みはできません。患者さんはかかりつけ医の先生を通してご予約ください。

地域医療連絡室 (診察予約) (受付時間 8:30～19:30)

FAX (06) 6441-0512 TEL (06) 6441-5463 (直通)

予約センター (検査予約) (受付時間 8:30～17:00)

FAX (06) 6459-4599 TEL (06) 6441-5451 (内線2153)

診療科等一覧

- 救急科/プライマリケア教育研修センター
- 内 科
- 神経精神科
- 神経内科
- 循環器内科
- 小児科
- 外 科
- 乳腺・内分泌外科
- 整形外科
- リウマチ科
- スポーツ医学センター
- 形成外科
- 脳神経外科
- 心臓血管外科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 産婦人科
- 眼 科
- 耳鼻咽喉科
- 放射線科
- 麻酔科
- リハビリテーション科
- 歯科口腔外科
- 病理科
- 内視鏡センター
- 女性医師外来
- 女性がん検診
- 禁煙外来
- 集中治療部

※各科の専門など詳細は<http://www.okn.gr.jp/>でご覧になれます。

※診療内容、専門外来に関するお問い合わせは直接各科外来にお願いします。

リウマチ科

問 整形外科外来

TEL (06) 6441-5451 (内線2109)

最新の薬物療法から脊椎・関節手術まで患者さんの状態に応じて幅広く対応しています。
(診療日) 要紹介・予約制: 初診 (月曜日)、再診 (月・火・木・金曜日)

集中治療部 (ICU)

大手術後、院内重症患者さんを集中的に治療する部門です。
救急部と連携して脳・心疾患・外傷の救急患者さん等を受け入れ、治療しています。

救急科

問 TEL (06) 6441-5451 (代)

脳・心血管手術を含め、広く救急患者さんを受け付け、24 時間手術可能です。
小児の急患も受け付けます。

内視鏡センター

問 TEL (06) 6441-5451 (内線2191)

消化管の癌やポリープなどの早期発見、早期治療 (内視鏡的手術) を目的としています。

申 かかりつけ医の先生から FAX、またはお電話にてご予約後、当日紹介状を持参ください。胃カメラはかかりつけ医の先生のご予約後、直接検査が可能です。

予 FAX (06) 6441-0512 かかりつけ医の先生専用

地域医療

病診連携を推進し、地域医療施設とのコミュニケーションを図りつつ、在宅ケア活動を実施しています。

地域医療連絡室 TEL (06) 6441-5451 (内線2158、2159)

患者さんの治療・療養が円滑に施行・継続されるよう、「かかりつけ医」との連携を深めています。

療養福祉相談室 TEL (06) 6441-5451 (内線2140)

患者さん、ご家族の抱えておられる問題点や不安を早期に解決し、在宅医療や看護を支援するため、地域医療施設や訪問看護ステーションと連携を取り合っています。
退院後の療養施設の紹介や、介護支援もおこないます。また、医療費の相談や福祉制度のご案内もおこなっています。

スポーツ医学センター

問 (06) 6441-5451 (内線3101)

火・水・金・土 9:00～17:00

月・木 9:00～20:30

E-mail: spo-cen@okn.gr.jp (随時受付可)

健康増進や病気予防を目的とした一人一人に適した運動を、個別に指導いたします。
安全で効果的な運動を、楽しみながら継続できるように、工夫を凝らしています。

申 完全予約制。センター受付にてあらかじめ、ご予約をおとください。

人間ドック・脳ドック・肺がんドック

問 ドック相談室

TEL (06) 6441-5451 (代)

生活習慣病やがんなどの早期発見・早期治療、発症の予防に役立ち、より健康的な生活をしていただくことが目的です。二日ドックと一日ドックがあります。

申 医事課 TEL (06) 6441-5451 (内線2144)

NICU (新生児集中治療室)

問 NICU当直医

TEL (06) 6441-5451 (代)

24 時間体制で、新生児の集中治療を行っています。他医療機関からの母体搬送や、新生児搬送入院にも対応し、地域周産期救急医療の一翼を担っています。

産科オープンシステム

問 かかりつけ医の先生専用

地域診療所・助産所のシステム登録医 (かかりつけ医) と当院が密接に連携して、当院にて出産を取り扱い、お産の安全性を高めるシステムです。

女性医師外来

問 医事課

TEL (06) 6441-5451 (内線2161)

女性の方は女性医師による診察を受けることができます。

(診察日) 毎週水曜日 (受付時間 8:30～11:30)

(診療科) 内科、皮膚科、産婦人科、小児科

(受付窓口) 医事課初診窓口 (①番窓口)

なお、女性医師の出張・異動等により、女性医師外来を休診している場合がありますので、ご了承ください。

申 当外来をご希望の女性患者さんは、医事課受付でその旨をお申し付けください。

乳がん検診

問 乳腺・内分泌外科外来

TEL (06) 6441-5451 (内線2271)

乳がんの早期発見にお役立てください。

(検診日) 毎月第 4 水曜日の午後 1:00 と 3:00、

毎週木曜日の午後 4:00

申 完全予約制。院内にある申込用紙で直接お申し込みされるか、お電話で予約センター TEL (06) 6441-5451 (内線 2153) まで事前にお申し込みください。(受付時間 平日 午後 2:00～5:00)

女性がん検診

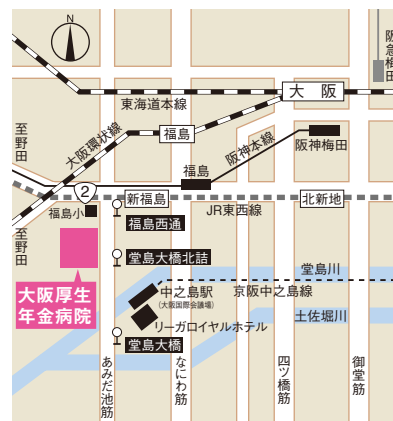
問 産婦人科外来

TEL (06) 6441-5451 (内線2279)

女性医師、女性スタッフによる乳がん・子宮がんのセット検診です

(検診日) 毎週金曜日 午後 2:00～午後 3:40

申 完全予約制。院内にある申込用紙で直接お申し込みされるか、お電話で予約センター TEL (06) 6441-5451 (内線 2153) まで事前にお申し込みください。(受付時間 平日 午後 2:00～5:00)



交通のご案内

- JR東西線
「新福島駅」下車 (出口③)、徒歩約5分
- 大阪環状線
「福島駅」下車、徒歩約10分
- 阪神電車
「福島駅」下車、徒歩約10分
- 京阪中之島線
「中之島駅」下車 (出口①)、徒歩約5分
- 市バス
大阪駅前 79、56A →「福島西通」下車
大阪駅前 55 →「堂島大橋北詰」下車
大阪駅前 53 →「堂島大橋」下車
- タクシー
「大阪駅」より約10分

大阪府「男女いきいき・元気宣言」登録事業者／「働きやすい病院」認定病院 (第1号)／「につけ子育て支援大賞受賞」女性のチャレンジ支援賞 (内閣府) 受賞



地域医療支援病院 日本医療機能評価機構認定病院

大阪厚生年金病院 信頼に応える医療

〒553-0003 大阪市福島区福島4-2-78

TEL (06) 6441-5451 (代表) FAX (06) 6445-8900

<http://www.okn.gr.jp/> E-mail: hs_oosaka@kjp.or.jp

この広報誌に対するご意見・ご要望は郵送かEメールで広報誌委員会宛まで

問 は問い合わせ 申 は申し込み 予 は予約先を表しています